

『法学新報』第十六卷十三（一九三）号

明治三十九年十二月一日

○合同体育会発会式 前学年中央大学及び中央高等予備校に於て柔術撃剣部を設けしより学員鈴木鐵造氏の指導に依りて受業者漸次増加し今年に入り数班の看るべきものあるに至り且つ体育を奨励して益益学生の身体を強健ならしむるは社会の進歩に伴ひて愈愈其必要を増加すべければ爰に両校合同の体育会なるものを創設して逐次運動方法を拡張するの議を決し中央大学長を同会長に先輩の学員弁護士石山彌平氏及び鈴木鐵造氏を副会長に挙げ去月二十二日を以て其発会式を挙行したり

同日午前九時一同第三講堂に参集し鈴木副会長は其開会を宣言したり天高く馬肥へ満城の秋気漸く熟して最も武を鍊るに可なり勇壮快活なる我校の健児はいてや是れより龍鬪虎搏の壮観を演せんとし今や委員は柔道三本勝負を開始せんことを伝ふ大坪対浅岡は両雄相下らずして引分け青木対藤澤は藤澤の勝に帰し藤崎対南は藤崎の勝ち松野対川崎は引分け今泉対近池同上齊藤対伊藤は伊藤の勝ち和田対尾泉は引分け宇野対米澤は宇野の勝

ち和田対澤田は和田の勝にて剣道三本勝負に移れり古田対浅岡は古田の勝に帰し米澤対青木は米澤の勝大坪対佐藤は佐藤の勝ち落合対松野は松野の勝ち浅岡対白井は白井の勝ち稲川対尾泉は稲川の勝ち水野対松尾は松尾の勝ち橋本対宇野は宇野の勝ち今泉対西川は今泉の勝ち吉田対染谷は染谷の勝ち高橋対今泉は高橋の勝ち安立対荒井は安立の勝にて午前の部を終り休憩したり午後一時柔道の紅白勝負を開始す紅軍は外国語学校にして之を率ゆる者は初段岡田勝利白軍は本学にして之を率ゆる者は初段稲川二郎となす紅軍の長澤白軍の高野出て闘ふ高野利あらず長澤善く闘へ白軍の大坪代りて敗れ齊藤敗れ和田亦敗れ白軍の色少しく動く老手澤田起て応戦し辛うして引分に終り紅軍の齊藤出つ白軍の尾泉応戦して之を倒す尾泉善く闘へ紅軍の天野、守屋を倒し杉の為に敗る本橋は杉を倒して杉浦に敗れ山本は杉浦に勝て山田に敗れ白軍愈窮地に陥り將軍自ら陣頭に立たざるを得ざるに至る然れとも稲川善く闘へ山田、小澤を倒して紅軍の旗下に肉薄したり岡田応戦して虚虚实実両雄交争ひ勝敗遂に決せずして之を引分く柔道有段者の勝負に入り講道館諏訪部对本学稲川及び外国語学校岡田対講道館山崎の決戦あり有段者の乱捕は初段畑生対苦米地、二段山上対二段新開、四段伊藤対三段佐竹諸氏及び幼年者岡本対丹波等の試合了りて七段山下義昭対伊藤徳五郎両氏の古式形あり嘉納治五郎氏臨席して柔道に關し懇切なる一場の演説あり佐竹対新開の両氏より講道館投の形を示さる

是より撃劍三本勝負に移り外国語学校阿部对本学宇野は宇野の勝利となり外国語学校松谷对本学染谷は染谷勝ち外国語学校長谷川对本学今泉は今泉勝ち外国語学校後藤对本学松尾は後藤の勝となり早稲田大学城島对本学橋本は橋本勝ち外国語学校木村対早稲田大学今は木村の勝となり早稲田大学齊藤対外国語学校武田は武田の勝ちとなり早稲田大学城島对本学高橋は城島の勝となり進て劍友館水谷对本学一番ヶ瀬に入り両雄の対戦満場静まり返りて其勝負如何に注目したり一勝一敗雌雄容易に決せされは審判中山氏は之を引分けたり早稲田大学竹中对本学安立は安立の勝に帰したり（因に早稲田大学龜田新氏と本学一番ヶ瀬倉次との決戦は龜田氏欠席の爲め看るを得ざりしは一同の遺憾とする所なりき）次に幼年者水谷対荒木の勝負あり番外として麻布中学校水野秀对本学高橋勇、學員上田成章対今泉鹿三郎間の勝負あり水野、今泉両氏の勝利に帰し次に勝者の競争一本勝負にて一等早稲田大学城島二等本学染谷と定まりたり夫れより本郷警察署山里忠徳氏対麴町警察署中山資信氏の武徳流形、中山氏の居合、京橋警察署堀田捨次郎氏対牛込警察署大澤藤四郎氏、大澤氏対台湾協會学校小倉延猛氏、堀田氏对小倉氏の模範試合を以て柔劍両道を了へ菊池学長旅行中に付き会長代理伊藤理事は合同体育会設立の主旨及び會員の心得を演述し次て石山、鈴木の両副会長列席の上優勝者に賞品を授与して茲に当日の式を了し一同予て大講堂に設備したる余興場にと歩を移し数番の琵琶及び劍舞等あり四元義一、木崎正道之を演し喝采湧くか如く各々歎を罄して散会したるは午後七時なりし